

I-5

アドルフ・ロースの「装飾と犯罪」にみる職人像
The craftsman image seen to "the ornament and crime" of the Adolf Loos

○島矢愛子¹, 大川三雄²
*Aiko Shimaya¹, Mitsuo Ohkawa²

about the modeling thought of the architect Adolf Loss. Relevance with consciousness [from the paper of the furniture and the sirloin seen by the construction work of a social background and a sirloin to a craftsman] - "ornament and crime" is clarified.

0. はじめに

アドルフ・ロース(1870-1933)(以下、ロース)はチェコのブリュンに生まれ、主にウィーンで活躍した建築家で、1908年に発表した論文「装飾と犯罪」は近代建築のインターナショナルスタイルに影響を与えたとされている。ロースは生涯117編に及ぶ論文を書いている。その中で職人に関するものを6編書いており、家具職人ファイリッヒによる家具製作や交流もあった。これらの事からロースにとって、職人が重要な位置を占めていることが考えられる。本稿の目的は職人への意識・「装飾と犯罪」との関連性を明らかにすることである。

方法として19世紀当時のヨーロッパ・オーストリアにおける社会と職人の関係・芸術の動き、建築作品におかれている家具、職人に関する論文6編を参照し、比較・分析する。

1. 19世紀後半から20世紀前半のオーストリアにおける政治・芸術面の動き

1-1 ウィーンの地理/19世紀の政治体制

オーストラリアは四方を他国に囲まれた他民族国家である。人種としてはドイツ人、ユダヤ人、



図1 1848年の三月革命

ポーランド人、トルコ人など。1814年から翌年に

かけてフランス革命・ナポレオン戦争の戦後処理のため、ウィーン会議が開かれた。

しかし、自由主義と国民主義を抑えようとするウィーン体制に反発してヨーロッパ各国で反発運動が起こる。オーストリアでは1848年のウィーン三月革命があたる。¹⁾

また、当時は王室で建具などを製作する職人を多く抱えていた。

1-2 ウィーンでの職人に関する動き

1881年営業法の規制緩和による自由競争によって生じた、不安からE・シュナイダーらによって「手工業保護協会」がつけられた。

翌82年にはリンツ綱領が自由派によって作られた。²⁾これは、職人に対する強制の訓練証明書と訪問販売による行商を禁止したもので、ユダヤの行商人の登場によって痛めつけられていた反ユダヤ的なウィーン職人組合を保護するものであった。

1-3 ヨーロッパ・ウィーンでの芸術に関する動き

19世紀末ヨーロッパにおいてアール・ヌーヴォーは拡大傾向にあった。オットー・ワグナーはもとも歴史主義の建築家として活躍していたが、分離運動ゼセッションの影響とウィーン現状に対して過去の様式からの離脱を訴え1897年画家のクリムトを会長としてウィーンゼセッションを設立する。ウィーンゼセッションは分離派様式とも呼ばれる。

アール・ヌーヴォーは市民に受け入れられ、19世紀後半から20世紀前半にかけて装飾を施した建築が作られる。ウィーン工房など、手工芸の工業化を促す動きも出る。

1 : 日大理工・院・建築, 2 : 日大理工・教員・建築

2. ロースの建築作品に置かれている家具

表 1 対象作品一覧

No		No	
1	■hugo haberfeld Apartment, Vienna	20	◇Emil Löwenbach Apartment, Vienna
2	◆Gustav Turnowsky Apartment, Vienna	21	◆Prof. Dr. Josef halban
2'		22	◆Willibald duschnitz
3	◆Villa karma, Clarens, near Montreux	23	◆Anna and Erich Mandl house, Vienna
4	◇Loos Apartment, Vienna	24	◆Villa hilda und Karl strasser
4'		24'	
5	◇Alfred sobotka	24''	
6	◇Schwarzwald Apartment, Vienna	24'''	
7	◇George and else weiss	25	◆Siedlung housing
8	◇Alfred kraus, Vienna	26	◆Palais in Wien
8'		27	◆Villa Josef and marie ruffr, Vienna
9	□Office of Arthurfriedman, Vienna	28	◇Villa Alexander Mossi
9	◇Rudolf Kraus Apartment, Vienna	29	◇Villa Dr. Arpad plesch
9'		30	◆Tzara house, Paris
9''		31	◆Moller house , Vienna
10	◇Khuner Apartment, Vienna	31'	
11	◇Arnold and julius bellak	31''	
12	◇wilhelm und martha hirsch, pilsen	32	◆House brummel, Pilsen
13	◆Otto beck	32'	
14	◆Steiner house, Vienna	33	◆Müller house, Prague(プラハ)
14'		33'	
14''		33''	
15	◆Willibald duschnitz	34	◆Zwei familie haus
16	◆Dr. Otto and Auguste stoessl, Vienna	35	◆Paul Khuner house, near
17	◇Leopold Goldman	35'	
17'		35''	
17''		36	◇Wohnung leo und trude Brummel
18	◆Scheu house, Vienna	37	◇Dr. Josef and stephane vogl
19	◇Dr. Valentin rosenfeld	37'	
19'		38	◇Leopold eisner

■:店舗兼住宅 ◆:戸建て住宅 □:オフィス ◇:インテリアの改修

2-1 椅子

i、ファイリッヒの制作した椅子

チップendale様式³⁾(イギリス)を真似ており、20 作品で置かれている。チップendaleは家具職人のチップendaleによって、18 世紀イギリスで製作され、市民のための椅子で、美と機能を統一させている。

ii、トーネットチェア

19 世紀ドイツの家具職人によって開発され、蒸気によって加工された曲げ木を使っている。カフェムゼウム・SCHEU 邸など。論文「ヨーゼフ・ファイリッヒ」でロースはチップendaleの椅子に加えて、トーネットの椅子と籐椅子を挙げており、自身の趣向に合う椅子として挙げられている。

2-2 Friedrich Otto Schmidt 社

1853 年にウィーンで開業した家具会社。



図 2 肘掛け椅子



図 3 肘掛けソファ

創業当時からハンドクラフト⁴⁾で作製しておりファイリッヒのものを除けば、作品に置かれている家具のものである。図 2 はシュトッサー邸(1899 年)をはじめとして 3 作品にみられ、をはじめとして 3 作品にみられ、図 3 はミューラー邸をはじめとして 2 作品にみられる。

3. 論文に書かれている「職人」⁵⁾

論文「建築における新・旧の二つの方向」(1898 年)では”仕事の方がなにか劣っているといった観念を長い時間をかけてコツコツと覆していったのは、なによりもイギリス人であった。”と手工芸を大事にしたアーツ・アンド・クラフトを評価している。「馬具職人」(1898 年)でウィーン工房への批判をはじめとして、ロースは職人を擁護する姿勢を持っていた。「住居の見学会」(1907 年)ではここ 50 年で家具職人の仕事が建築家の手中にあり、くだらない仕事＝”装飾を施すこと”をする建築家から解放することが大事で、これらが上手くいけば近代的な住居の室内空間にとっての大きな障害はもはやないとしている。ドイツ工作連盟を批判する「余計なこと」(1908 年)では自分たちの必要なのは家具職人の文化であること、「建築について」(1910 年)では 98 年に行った内部設計に際して、ロースは多くの伝統をもつ建具屋などの職人たちへ出向き、その技術を教えてもらったことが書かれている。

4. まとめ

ロースの建築作品に置かれている椅子や家具はあくまで職人のみによって組織された工房で彼らの技術をもちいてつくられ、ウィーン工房は建築家と職人が共同で組織している違いが分かった。装飾は建築家との協同により、生まれるものとしている。以上のことからロースが職人に対して評価していることがわかり、「装飾と犯罪」は職人への尊敬が関与していると考えられる。

【参考・引用文献】1)世紀末ウィーン P. 18 岩波書店 1983 年 2)世紀末ウィーン P. 162 3)『近代建築への招待』P. 18~19 青土社 1992 年 4) Friedrich Otto Schmidt 社 HP 5)『装飾と犯罪』伊藤哲夫訳 中央公論美術出版

【図版】(1)図 1 ウィーン都市の近代 田口晃 岩波書店 2008 (2)図 2、3 Adolf Loos Theory and works